



HOKKAIDO  
UNIVERSITY

資料6

2018.3.26 平成29年度第1回北海道アザラシ管理検討会

# アザラシ被害の実態 聞き取り調査結果概要

北海道大学  
宮内泰介(環境社会学)

## 漁業被害の継続的な調査の必要性

- 管理計画の中心は漁業被害の軽減。
- しかし、漁業被害の実態は簡単ではない。
  - 漁協ごと、地域ごと、魚種ごと、漁業者ごとによって違う。被害は多面的。
  - 被害は数値にしにくい。
    - ・ e.g. 魚が寄ってこなくなった、被害があるので漁をやめてしまった、などは現在の「被害額」には入っていない。
  - 被害は漁業の実態との関連の中で出てくるもの。
    - ・ 「漁業の実態」= どのような漁業をどの時期にどの程度の規模で行っていて、それがどのような資源実態及び社会経済的な影響の元でどのような状況にあるのか



- 幅広い聞き取り調査を軸に被害実態、被害認識のモニタリングを継続する必要性



## 調査概要

1. 2017年8月3～4日 礼文島(船泊漁協、香深漁協)
2. 2017年8月29～30日 稚内漁協、宗谷漁協、猿払漁協
3. 2017年11月16～18日 羽幌、天売島、焼尻島(北るもい漁協)
  - 漁協および漁業者からの聞き取り。なるべく多くの漁業者からの聞き取りを試みる。
  - アザラシ被害だけでなく、漁業全体の状況を合わせて聞き取り。トド・オットセイ被害も含めて聞く。



# 礼文島(船泊漁協、香深漁協からの聞き取り)

1. ホツケ刺し網(4~10月)、タラ刺し網(11~3月)、タコ樽流し漁、タコ籠漁に被害。
2. ここ数年春にタコの頭などが食べられる被害がかなりあったが2017年は減少。刺し網の直接被害はないが(トド・オットセイによる被害はあり)、間接被害は不明。
3. 銃で捕獲や追い払いを継続していた効果があり、近年船泊漁協エリアのアザラシは減っている。



# 稚内漁協

1. 小型定置網(5~8月、マス)、刺し網(カスベ・カレイ)、タコ空網漁、サケ定置網(8~9月)に被害
2. 全体的に被害が大きい。とくに抜海地区と声問地区の小型定置網(マス)に被害が大きい。この小定置は、被害があるために、やらない人も。
3. 3年間ほど駆除しても漁業被害はなくならないが、銃や轟音玉による駆除の効果で抜海のアザラシは減少している。駆除を止めたら被害がもっと増えるだろう。



# 宗谷漁協

1. タコ(箱漁・籠漁・いさりびき漁)、サケ定置網(9～10月)、小型定置(7～8月、マス)、刺し網(ニシン)に被害
2. 全体的に被害が大きい。タコの被害が大きい。サケ定置・マス小定置・ニシン刺し網は、被害のために、やめた人も。平成29年度より銃による捕獲や追い払いを実施

(参考) ゴマフアザラシ目視頭数は、4月下旬は100頭くらい、5月は100～150頭くらい、6月下旬は50頭くらい。



# 羽幌・苫前

1. カレイ刺し網(3～6月)で被害
  - 被害原因が、トドかアザラシかオットセイなのか判別が難しい。
2. 羽幌12～13名、苫前25名、初山別4名で並んで刺し網を張るが被害のある人(網)とない人(網)とがある。  
2017年の被害は、例年より少なかった。



## 天売島(北るもい漁協天売支所)

1. 刺し網(ホッケ、タラ、カレイ)、ヤリイカ小型定置網(4～5月)に被害
2. ホッケの刺し網で大きな被害(2017年9月末～11月、1日100kg分くらいの被害。網も大きな被害)。タラの刺し網で間接被害。
3. ヤリイカの小型定置網(4～5月)は例年被害が大きかったが、今年は不漁のため被害もなかった。





# 焼尻島（漁協および漁業者から聞き取り）

1. タコ樽流し網漁（12～3月）に被害
2. ヤリイカの小型定置網に例年被害があるが、2017年、不漁で被害なし。
3. 地元漁業者ハンターによる追い払い（トド・アザラシ）が周年で行われている。



## まとめ

地域	アザラシ(およびトド)の主な被害	対策と課題
礼文島	刺し網(ホッケ、タラ)、タコ	地元漁業者ハンターによる駆除が奏功
稚内漁協	被害大。小型定置網(マス)、タコ空網漁、刺し網(カレイ・カスベ)、サケ定置網	駆除しているが漁業被害なくなるらない
宗谷漁協	被害大。タコ(箱漁・籠漁・いさりびき漁)、サケ定置網、小型小定置(マス)、刺し網(ニシン)	2017年より銃による捕獲・追い払い実施。
羽幌・苫前	刺し網(マガレイ)	
天売島	ホッケの刺し網。(ヤリイカは不漁で被害なし)	2017年度、海鳥の繁殖に影響を与えない捕獲手法を検証
焼尻島	タコ樽流し漁。(ヤリイカは不漁で被害なし)	地元漁業者ハンターによる追い払い

## 今後

- 漁業被害は、毎年変化する部分がある。また、不明の部分も大きい。
  - 駆除・追い払いの効果は短期的には判断が付きにくいことが多い。
- 継続して、漁協・漁業者を中心に聞き取り調査を行っていく必要。

